

登米市立小・中学校のプール施設のあり方について

1 学校プール施設の現状と課題

学校教育における水泳授業は、水に親しみながら体力の向上を図るとともに、生命の安全確保にもつながる運動として、大変意義のあるものです。本市の水泳授業は、6月中旬から一カ月半程度実施していますが、近年では猛暑による熱中症のおそれや天候の影響により、計画的な授業の実施が難しくなっています。

市内小中学校のプール施設は昭和40年代後半から昭和50年代にかけて整備されたものが多く、令和6年度時点では築後30年以上経過している学校は、小学校で16校、中学校で6校にのぼり、全31校のうち約7割を占め、多くの費用がかかる老朽化した施設の維持管理や日常の水質管理などの業務は、教員の負担にもなっております。

2 今後の学校プール施設のあり方

学校プールの利用期間は短期間に限られていますが、水質維持のための施設管理や薬剤の購入など毎年、維持管理経費が発生することに加え、施設の老朽化により、改修が必要となった場合、多額の費用が発生している状況です。

このような状況において、学校教育における水泳指導の必要性を認識する中、児童・生徒に対する安全・安心な授業の実現、教員の負担軽減、改築時期を迎える施設整備の負担軽減など、今後、学校プール施設の更新や新設にあたっては、利用実態や費用対効果を踏まえ原則行わず、水泳授業については下記比較表により、学校や保護者等のご意見を頂きながら学校ごとに判断していきます。

記

水泳授業代替手法の検討に係る比較表

	区分	授業期間	指導者	移動手段	学校負担
A	市民プール	スケジュール調整が必要となるが、室内プールにより、夏季期間以外の利用も可能。	派遣された専門のインストラクターの指導により、質の高い効果的な授業が可能。	目的地までの移動時間 15 分、距離 10 km以内を目安とし、バスで送迎。	施設の維持管理、水質管理業務などが不要となり、教員等の負担軽減が図られる。
B	民間プール	スケジュール調整が必要となるが、室内プールにより、夏季期間以外の利用も可能。	専門のインストラクターの指導により、質の高い効果的な授業が可能。	目的地までの移動時間 15 分、距離 10 km以内を目安とし、バスで送迎。	施設の維持管理、水質管理業務などが不要となり、教員等の負担軽減が図られる。
C	学校共同プール	学校間でのスケジュール調整が必要。通常の水泳授業期間。	教員が基本となる。	移動時間 15 分、目的地までの距離 10 km以内を目安とし、バスで送迎を行う。	一部負担軽減は図られるが、利用する学校側の施設維持管理、水質管理業務などが必要となる。